

第 1 回 宇治市小学校給食における提供のあり方検討委員会

日時 令和 4 年 6 月 24 日 午前 10 時～

(主な意見)

- ・ 今までやってきた自校方式にメリットがある。
- ・ 今小学校でやっている食育と同程度のものがセンターでできるのか、整理しなおす必要がある。
- ・ 栄養教諭等の配置がどうなるのか。
- ・ センターと自校とでの統一献立実施は可能か。
- ・ 保温食缶での提供により、温度とおいしさは問題ない。
- ・ 給食センターはハード面ではプラスになるが、ソフト面に不安が残る。
- ・ 栄養教諭等の配置に関しては、宇治市は特に充実している。
- ・ 自校のドライ化はお金と期間を要するのか。

第 2 回 宇治市小学校給食における提供のあり方検討委員会

日時 令和 4 年 7 月 1 日 午前 10 時～

(主な意見)

- ・ 他市の給食センターの事例によると、栄養教諭等はセンターでの業務が中心になるため、学校での食育活動は行いにくいと聞いている。
- ・ 今回、給食センターの整備にあたり、将来的に児童生徒数の減少等が必ず見込まれること、小学校の給食設備の老朽化が進むことなどは大きな問題なのでセンターとの併用を議論する必要がある。
- ・ 給食センターが食育の拠点として、試食会や調理実習など、保護者等も対象とした食育ができればよい。
- ・ ICT 技術の活用による定点カメラに加え、調理員と同じ視線を体感できる「アクティブカメラ」を導入することで子どもたちに関心を持ってもらい、より有効な食育の実施ができると思う。
- ・ 小学生への食育については、仮にセンター方式で実施する場合でも該校に栄養教諭等が配置されることが望ましい。
- ・ ドライ方式のセンターの利点を活かした献立を検討する必要がある。

第1回・第2回の議論について

【背景】

- ・ 宇治市の中学校は、令和8年度を目途に給食センター方式で提供される予定
- ・ 今回、整備する給食センターの規模は約6,000食であり、小中学校分すべてをただちに給食センターで賄うことは困難
- ・ 今後、児童生徒数の減少が見込まれているとともに、小学校給食室の老朽化対応が必要であり、新たに整備する給食センターの活用を議論

【意見のポイント】

- ・ 自校方式が児童の身近で調理するメリットがあり、できる限り継続してほしい
- ・ 小学校給食の一部に給食センター方式を取り入れる場合は、食育指導やアレルギー対応等のため、該当校に栄養担当職員を配置してほしい
- ・ 給食センターは食育の拠点施設として、試食会・調理実習など保護者も対象にした食育やICT技術を活用したより有効な食育をしてほしい
- ・ 献立については、ドライシステムのセンター方式及びドライシステム導入校と、ドライ運用校の間でそれぞれの利点を生かしてほしい

(第3回の確認内容)

1. 学校栄養教諭等の業務内容について
2. センター方式における委員会での意見